

日本選挙学会 ニュース・レター

Japan Election Studies Association

No.20 1997年12月

1996-97年の諸選挙から

芹澤 功

日本選挙学会は、1981年10月創設以来、既に17回の総会・研究会を重ね、12巻の『選挙研究』を刊行したが、「選挙とその関連」の研究の対象は広く、奥が深いと熟づく思うこの頃です。各レベルの選挙は毎年何処かであり、研究対象の素材は増加、蓄積の一途を辿っています。

1996年から97年にかけて、重要な選挙が実施されています。日本では、あい継ぐ汚職が政治改革の必要を喚起し、紆余曲折の結果、衆院の選挙制度改革のみに終わりました。その新選挙制度で初めての衆院の総選挙が96年10月に実施されました。この小選挙区比例代表並立制は、政党の政策本位の選挙にし、政治不信を払拭するという狙いがあったはずですが、有権者の4割以上が棄権するという衆院選挙史上最低の投票率で答えました。この総選挙については、今年度の研究会の共通論題、分科会で、多角的な研究がすでに報告され、検討され、新制度の問題点も指摘されました。

この総選挙では、党名を変えた政党や新党が概して不振で、「昔の名前で出た」政党が伸張したが、この傾向を助長したのが、今年の7月の東京都議選です。都の有権者は「気紛れな選択」をする反面、国政選挙の「先行指標」にもなる投票行動をしてきました。それにしても、約6割が棄権して、これも都議選史上最低の投票率を記録したことまで「先行指標」になるのは懸念を抱かざるをえません。最近の日本の各レベルの選挙での投票率の低下傾向は、政治のみならず社会全般の閉

塞感の蔓延の反映なのか、政治に改革する力があることが、目に見えるまでは続くのではないのでしょうか。

96年11月の米大統領・議会の選挙でも、1924年以来の低投票率で、5割を切っています。この選挙で、民主党のクリントン大統領が、共和党のドール候補に勝って再選されたが、米連邦議会の選挙は上下院とも、共和党が過半数の議席を維持して、基本的構図は変わりませんでした。この選挙も今年度の研究会手で報告、検討されております。

5月の研究会に間に合わなかった5月1日の英国の総選挙では、労働党が659の定数中419議席を獲得して、18年ぶりに政権は労働党にスウィングしました。ブレア労働党党首は当選時43歳で、その若さが注目されたが、大敗を喫した保守党はメジャー前首相退陣後、6月ヘイグ前ウェールズ相36歳を党首に選びました。これで英国の政治は党首の若さの競争の時代に入りました。

佛の国民議会選挙の第2回投票が6月1日に実施され、左翼勢力が過半数の議席を獲得し、シラク大統領は、ジョスパン社会党第一書記を首相に指名し、ミッテラン前大統領とは逆のコアピタシオンになりました。

選挙と評価できるか疑問のある選挙や選挙結果が、「他の手段」で無効にされた事例もあり、これらも視野に入れると研究対象はさらに広くなりそうです。

(せりざわいさお・武蔵工業大学教授)

1997年度総会議事録

第1日目

日時 1997年5月17日(土)12時30分～12時55分

場所 椋山女学園大学

芹澤功理事長、水崎節文大会運営委員長挨拶の後、以下の事項が報告・承認された。

1. 1996年度決算・監査報告

監査報告の後に、決算案(本ニュース・レター8頁参照)が賛成多数で承認された。

2. 1997年度予算案提案

1997年度の予算案(本ニュース・レター9頁参照)の趣旨説明が河野事務局長からなされ、賛成多数で承認された。

3. 新入会員の紹介

総会前に入会の申し込みのあった者に関し、理事会で審査した結果、23名の入会が承認されたこと、並びにその新入会員を含めた現会員数が463名であることが報告された。

第2日目

日時 1996年5月18日(日)12時00分～12時25分

場所 椋山女学園大学

芹澤功理事長挨拶の後、以下の事項が報告・承認された。

1. 1998年度総会・研究会の件

芹澤理事長から、1998年5月に学習院大学で来年度の総会・研究会を開催することが報告された。

2. 理事補充の件

来年度の総会・研究会を学習院大学で開催することにともない、大会運営委員長として砂田一郎会員(学習院大学教授)を理事として補充したい旨の提案が芹澤理事長からなされ、賛成多数で承認された。

3. 各委員会活動報告

(1) 企画委員会

谷企画委員長より、研究会での報告用論文の提出について締切を厳守して欲しいとの要請があった。

(2) 年報編集委員会

小林年報編集委員長より、『選挙研究』第12号が2月28日に発行されたことが報告された。さらに第13号に関し、20件の掲載希望があり、これについては編集委員以外の外部審査を実施すること、執筆要項厳守のこと、さらに従来A5縦書きから、B5横書きへ体裁を変更することなどが報告された。

(3) 文献委員会

酒井文献委員長より、1月で締め切ったアンケートに基づき1995-96年度『文献目録』を、6月には発送する予定であることが報告された。

(4) 選挙管理委員会

阿部選挙管理委員長より、今年度は理事選挙の年であり、7月1日付けで選挙人名簿を締め切り、10月10日までに投票用紙を発送し、11月10日までに郵送で到着した投票をもって開票する旨のスケジュールと、住所変更は自己申告で、さらに投票用紙の紛失等による再発行はしない旨の注意がなされた。

4. 新入会員の紹介

17日の総会以降に申し込みのあった入会希望者に関し、総会に先立って開催された本日昼の理事会で、新たに3名の入会が承認されたこと、並びに新入会者を含めた現在の会員数が466名であることが河野事務局長より報告された。

各委員会からのお知らせ

【企画委員会から】

日本選挙学会の総会・研究会への参加者は、このところ急速に増えており、今年度はついに200名を超えました。これは、会員各位の熱意の表

れであるとともに、開催校によるご努力のたまものでもあります。厚く御礼申し上げます。

来年度の総会・研究会は学習院大学で開かれます。選挙学会はこれまで行政学会と開催日が重なることが多かったのですが、来年度は両学会の間で日程の調整を行い、別々の週に開催されることになりました。企画委員会としては、一部メンバーが重なるマスコミ学会などとも引き続き日程調整を進めていく予定です。これまで研究会が重なってご不便をおかけしてきた方々を始め、会員の皆様の一層のご協力とご参加をお願い申しあげる次第です。

企画委員会では、このところ報告の公募を積極的に進めて参りました。学習院大学での次期研究会においても、応募があったなかから多数の方に御報告をお願いする方向で、現在企画案を調整しております。ただ、われわれとしましては、司会者・報告者・討論者の組み合わせができるだけ多様なものとなり、また全国的な広がりをもつようになることを心がけておりますので、優れたご提案をいただいた場合でも、組み合わせ上心ならずともご意向に添えない場合もあります。よろしくご理解のほど、お願い申し上げます。

また、皆様にご理解を賜りたい問題の一つに、報告者の方のレジュメ・論文提出義務があります。この点につきましては、これまでも繰り返しニュース・レター等によりまして皆様方にご協力をお願いして参りましたが、来年度からは、レジュメ・論文を提出していただけない方には一律に報告をご遠慮願うこととさせていただきます。参加者、特に討論者があらかじめ報告の内容を検討する機会を確保することによって、研究会における議論をより実りのあるものにすることがその趣旨ですので、ご理解のほど、よろしくお願い申しあげる次第です。
(企画委員長・谷聖美)

【年報編集委員会から】

< A : 97年度年報投稿原稿について >

97年度年報(98年3月発行予定)用原稿を会員の方から広く公募させて頂きました。その結果、

19件の方からの期日(1997年4月30日)までにお申し出があり、その内の14件の論文が期日(1997年6月30日)までに提出されました。提出された論文を、公正を期すために、年報編集委員会以外の外部審査員に審査を依頼した結果、11件が「修正の上、掲載可」、3件が「掲載不可」と判断されました。

従来に比べて、96年度年報、97年度年報と次第に投稿数が増えていることは、学会の活性化という意味からも、大変、歓迎すべきことであると思います。今後も、会員の方からの投稿のお申し出を一層、お待ちしております。

< B : 97年度年報原稿の募集 >

98年度年報(99年3月発行予定)用原稿を会員の方から広く公募させて頂きます。次の要項で、進んで御応募頂ければ幸いです。

- (1) 応募資格：会員の方で過去3年間、会費未納でない方
- (2) 応募要領：論文タイトル、氏名、御所属、連絡先住所、電話・FAX番号、論文概要(1,000字程度)を御送付下さい。
- (3) 応募締切：1998年4月30日
- (4) 応募先：〒108

東京都港区三田2-15-45
慶應義塾大学法学部 小林良彰

< C : その他 >

この他、年報について御質問のある方は、下記まで何でも遠慮なくお申し出下さい。

〒108

東京都港区三田2-15-45
慶應義塾大学法学部 小林良彰

FAX 03-3705-4530

(年報編集委員長・小林良彰)

【文献委員会から】

文献委員会では、本年6月、会員からお寄せいただいた選挙研究関係業績リストに基づき、『日本選挙学会文献目録』(1995-1996年版)を編集し、お手元にお届けいたしました。編集要領に沿い、

正確を旨に作成したつもりですが、ミスがございましたらご寛恕下さい。会員各位のご協力に感謝いたします。（文献委員長・酒井正文）

【選挙管理委員会から】

1997年度日本選挙学会理事選挙を、理事・監事候補者選出規定に基づき厳正に執行し、11月11日に選挙管理委員会委員3名で開票作業を完了し、その結果（得票者、得票数、順位を付したものを）理事長にご報告いたしました。

開票結果は以下の通りです。

投票用紙発送数 403通
着信郵送投票数 187通
うち無効 1通（全て白票）
有効投票数 186通

なお、8名有効連記163通から1名有効単記まで、総有効投票数1,401票。

今回の選挙においては、宛名不明や住所変更等による返送は一通もなく、また期限後着信（投票数には数えない）もわずか2通で、会員各位がルールを遵守されたことに、委員会として感謝いたします。（選挙管理委員長・阿部四郎）

理事候補者選出選挙の結果

前記の選挙管理委員会からのご報告にありますように、1998～1999年度期の理事候補者選出選挙の開票結果に基づき、理事長より当選者に対して次期理事候補への就任のご意思を確認いたしましたところ、以下の16名の会員の方が次期理事候補者への就任を承諾されましたので、ご報告申し上げます（あいうえお順）。

なお、1998～1999年度の理事会は、ここでご紹介する16名の公選理事と、この公選理事が推薦する理事（推薦理事）若干名の合計24人以内が、来年5月の総会（学習院大学で開催予定）にて、会員の皆様よりご承認いただいた後、正式に発足い

たします。

荒木 義修（松阪大学）
石田榮仁郎（近畿大学）
岩井 奉信（常磐大学）
内田 満（早稲田大学）
蒲島 郁夫（東京大学）
上條 末夫（駒澤大学）
黒川貢三郎（日本大学）
河野 武司（杏林大学）
小林 良彰（慶應義塾大学）
酒井 正文（平成国際大学）
杉本 稔（日本大学）
芹澤 功（武蔵工業大学）
田中 愛治（青山学院大学）
玉井 清（慶應義塾大学）
富田 信男（明治大学）
堀江 湛（杏林大学）

以上、16名。

1997年度総会・研究会報告

1997年度日本選挙学会総会ならびに研究会が5月17日（土）・18日（日）に、椋山女学園大学において開催されました。

第1日目 5月17日（土）

分科会 A・B（9時30分～11時30分）
分科会 A 地方部会「政策決定と住民投票」
司会 小林良彰（慶應義塾大学）
報告1 江上能義（琉球大学）
「沖縄の県民投票」
報告2 沖野安春（新潟大学）
「新潟県巻町における原発住民投票をめぐって」

報告3 後 房雄(名古屋大学)
「住民投票 - 民意と民主主義の類型論
からの一考察 - 」
討論 小塚哲司(中日新聞)

分科会B 理論部会「政治的レジティマシーと選挙」
司会 中野 実(明治学院大学)
報告1 森本哲郎(奈良産業大学)
「正統性原理の転換」
報告2 曹 瑞泰(中国文化大学)
「直接選挙の実施による民主主義体制
の展開」
報告3 片山 裕(神戸大学)
「現代東南アジアの政党制と選挙」
討論 木村雅昭(京都大学)

理事会(11時35分~12時25分)
総 会(12時30分~12時55分)

分科会C・D(13時00分~15時00分)

分科会C 国政部会
「90年代日本の棄権と民主主義」
司会 芹澤 功(武蔵工業大学)
報告1 山田真裕(関西学院大学)
「1996年衆院選における棄権」
報告2 村山 皓(立命館大学)
「選挙の機能についての有権者の認識
が投票行動に与える影響」
報告3 平野 浩(明治学院大学)
「有権者における投票/棄権の決定要
因の分析」
討論 荒木義修(松阪大学)

分科会D 比較部会
「1996年アメリカ大統領・議会選挙」
司会 山川雄巳(関西大学)
報告1 今村 浩(早稲田大学)
「「分割政府」定着とアメリカ政党制
の変容」
報告2 神江伸介(香川大学)

「上院議員選挙(ネブラスカ州の事例
から)」
報告3 森脇俊雅(関西学院大学)
「アメリカの議会選挙」
討論 久保文明(慶應義塾大学)

共通論題「新制度下の総選挙」
(15時15分~17時45分)
司会 谷 聖美(岡山大学)
報告1 福岡政行(白鷗大学)
「新選挙制度下の第41回衆院総選挙の
分析」
報告2 河野武司(杏林大学)
「報道と政治意識・投票行動」
報告3 バク・チョルヒー(コロンビア大学)
「ネットワーク・キャンペーンの合理性と失敗に終
った政治改革」
討論 内田 満(早稲田大学)
市川太一(広島修道大学)

懇親会・開催校挨拶(18時00分~20時00分)

第2日目 5月18日(日)

分科会E・F(9時00分~11時00分)

分科会E 方法論部会
「政治分析における計量的方法」
司会 三宅一郎(関西大学)
報告1 柴内康文(東京大学)
「電子ネットワークにおける世論調査」
報告2 栗田宣義(武蔵大学)
「内容分析とブル代数」
報告3 佐藤祐司(松阪大学)
「AHPによる投票行動分析」
討論 池田謙一(東京大学)

分科会F 歴史部会「地盤の形成と変容」
司会 富田信男(明治大学)

- 報告 1 季武嘉也（創価大学）
「戦前期大選区制度下の理想と現実」
- 報告 2 奥健太郎（慶應義塾大学）
「昭和三年総選挙における中選挙区制の導入とその影響」
- 報告 3 藤本百男（兵庫教育大学学校教育学部
附属中学校）
「兵庫県における第二回総選挙の研究」
- 討論 山室建徳（帝京大学）

理事会（11時05分～11時55分）
総会（12時00分～12時25分）

分科会 G・H（12時30分～14時30分）

- 分科会 G 制度部会「小選挙区・比例代表制並立
制の検証」
- 司会 白鳥 令（東海大学）
- 報告 1 石川真澄（新潟国際情報大学）
「「政治改革」を点検する」
- 報告 2 阪上順夫（松阪大学）
「政治改革は政治改悪に終わった」
- 報告 3 堀江 湛（杏林大学）
「新選挙制度の意図と成果」
- 討論 西平重喜（統計数理研究所名誉所員）

- 分科会 H 心理部会「「無党派層」の政治心理」
- 司会 田中靖政（学習院大学）
- 報告 1 田中愛治（青山学院大学）
「無党派層の意識構造と投票行動」
- 報告 2 早川昌範（愛知学院大学）
「「無党派層」の類型とその特徴」
- 報告 3 山田一成（法政大学）
「メディア・イベントとしての「無党派層」」
- 討論 鮎戸 弘（東洋英和女学院大学）

分科会 I・J（14時45分～16時45分）

- 分科会 I 法律部会「代表制の憲法論的検証」
- 司会 石田栄仁郎（近畿大学）

- 報告 1 戸波江二（早稲田大学）
「代表制と選挙・政党をめぐる憲法問題」
- 報告 2 小林昭三（名城大学）
「代表制の憲法的アプローチ」
- 報告 3 前田英昭（駒澤大学）
「「正当に選挙された代表者」と「96
年総選挙」
- 討論 森 英樹（名古屋大学）

- 分科会 J 「自由論題」
- 司会 品田 裕（神戸大学）
- 報告 1 天川由記子（水戸短期大学）
「テレビを利用した政党選挙戦略」
- 報告 2 岡田 浩（東北大学）
「政党間差異認知の投票参加に及ぼす
影響」
- 報告 3 三輪博樹（筑波大学）
「独立後のインドの政党システムの変
化とその要因」
- 報告 4 渡辺容一郎（日本大学）
「イギリスにおける選挙運動の特質と
起源」
- 討論 水崎節文（椋山女学園大学）

理事会だより

【日本学術会議】

本学会から、堀江湛理事（杏林大学）が日本学術会議第17期会員として2期連続で任命されました。また研究連絡委員には、前期に引き続き小林良彰理事（慶應義塾大学）をお願いいたしました。

【科研費による出版助成】

本学会の年報『選挙研究』第13号の出版に関し、今年度も文部省の科学研究費補助金による助成（25万円）を受けることができました。

【新入会員】

昨年度のニュース・レター以降に新たに入会が認められた方は、以下の通りです。

・1996年度入会者

金子 太郎（香川大学）
松田 葉子（山陽新聞社）

・1997年度入会者

浅野 正彦（カフォルニア大学ロサンゼルス校）
イザハール 真美（東海大学）
石生 義人（筑波大学）
伊東 和彦（栃木県選挙管理委員会）
今井 尚義（筑波大学）
岩村 正史（慶應義塾大学）
遠藤 浩一（情報工学センター）
大須賀 瑞夫（国際学院埼玉短期大学）
春日 雅司（摂南大学）
加藤 元宣（日本放送協会）
金 ソナ（慶應義塾大学）
京極 康信（東京大学・オックスフォード大学）
久保 文明（慶應義塾大学）
レイ・クリスチャン（プリンガム・ヤング大学）
弦間 一雄（博報堂）
小南 浩一（北陸大学）
坂本 隆幸（南山大学）
佐藤 祐司（松阪大学）
佐藤 陵一（東海大学）
篠原 学爾（東海大学）
孫 尚仁（東海大学）
高松 功幸（東海大学）
陳 淑玲（新潟大学）
名嘉 憲夫（国際基督教大学）
西川 美砂（ミシガン州立大学）
野口 暢子（学習院大学）
早川 純貴（駒澤大学）
平山 幸士（東海大学）
松永 信一（摂南大学）
松本 彦（アジア研究センター）
満間 信恭（財団法人明るい選挙推進協会）

村主 道美（学習院大学）
羅 一慶（慶應義塾大学）

【退会会員】

昨年度のニュース・レター以降、下記の会員が退会されました。

公平 慎策（去）
小林 昭三（自己都合）
仲 衛（去）
的場 敏博（自己都合）

公平慎策、仲衛両会員には慎んで哀悼の意を表します。

1 9 9 6 年 度 決 算 報 告

収 入	支 出
(円)	(円)
前年度よりの繰越金	総会研究会費
¥3,133,034	¥471,083
寄付金	委員会活動費
文部省科学研究費補助金	¥250,000
¥250,000	会議費
(年報12号)	¥8,970
桜田会より(年報12号)	通信費
¥1,600,000	¥349,150
会費	学生アルバイト費
¥3,658,730	¥181,084
年報等売上金	謝金
¥86,000	¥100,000
受取利息	印刷費(名簿・年報12号印刷費含む)
¥3,031	¥2,496,729
雑収入	文具費
¥100	¥20,902
	雑費
	¥44,893
	年報発行準備金へ繰入れ
	¥800,000
	次年度への繰越金
	¥4,042,084
合 計	合 計
¥8,730,895	¥8,730,895

年 報 発 行 準 備 金

収 入	支 出
(円)	(円)
前年度からの繰越金	次年度への繰越金
¥3,361,934	¥4,167,457
一般会計からの繰入金	
¥800,000	
受取利息	
¥5,523	
合 計	合 計
¥4,167,457	¥4,167,457

1 9 9 7 年 (平 成 9 年) 3 月 3 1 日

以上の通り相違ありません。

監事	池田 謙一	印
監事	平野 浩	印

1 9 9 7 年 度 予 算

収 入	支 出
(円)	(円)
前年度よりの繰越金	総会研究会費
¥4,042,084	¥500,000
寄付金	委員会・事務局活動費
文部省科学研究費補助金	¥200,000
¥250,000	会議費
(年報13号)	¥50,000
桜田会より(年報13号)	通信費
¥1,400,000	¥450,000
会費	学生アルバイト費
¥2,800,000	¥150,000
年報等売上金	謝金
¥60,000	¥110,000
受取利息	印刷費(年報13号印刷費含む)
¥4,000	¥2,800,000
	文具費
	¥30,000
	雑費
	¥50,000
	備品費
	¥600,000
	年報発行準備金へ繰入れ
	¥1,000,000
	次年度への繰越金
	¥2,616,084
合 計	合 計
¥8,556,084	¥8,556,084

年 報 発 行 準 備 金

収 入	支 出
(円)	(円)
前年度からの繰越金	次年度への繰越金
¥4,167,457	¥5,173,957
一般会計からの繰入金	
¥1,000,000	
受取利息	
¥6,500	
合 計	合 計
¥5,173,957	¥5,173,957

事務局だより

【会費の納入について】

会費は郵便局を通して納入することができます。
口座番号と会費は以下の通りです。

振込先(加入者名) 口座番号
日本選挙学会 00170-2-31731

年会費

正会員(大学院生以上) : 8,000円
法人会員 : 50,000円
準会員(学部学生のみ) : 2,000円

(それぞれ年報『選挙研究』代を含みます。但し、正会員の年会費は1992年度までは5,000円で、年報代を含みません。)

会費の滞納は学会運営に深刻な支障をきたすのみだけでなく、会員間での取り扱いの不公平をもたらしめます。

また過去の会費の滞納状況によっては、学会からの事務連絡や、研究会での報告・年報への投稿資格などが、停止される場合もあります(この措置は、1995年5月21日の理事会で決定し、同日の総会で報告・承認された「会費滞納者の扱いについて」に従います。内容の詳細については、『ニューズレター』第18号に掲載してあります)。本年度の会費のみならず、過去の年度の会費を滞納されている方には、併せてお支払いいただきますよう何卒お願い申し上げます。

なお、会費の納入状況についてのお問い合わせは、事務局長(杏林大学社会科学部・河野武司、TEL:0426-91-0011内線2577、FAX:0426-91-5899)までお願い申し上げます。

【1998年度の研究会・総会について】

1998年度の研究会・総会は、1998年5月17・18日の予定で、学習院大学(東京都)で開催されま

す。

【事務局への連絡について】

日本選挙学会の事務局は、理事長校の武蔵工業大学に所在しておりますが、事務局幹事は以下の3名が務めております。

事務局長：河野武司(杏林大学社会科学部)
幹事：川上和久(明治学院大学)
野口忠彦(拓殖大学)

学会事務に関することは、上記の3名にお気軽にお尋ね下さい。また住所や所属の変更などがある場合は、事務局までお知らせ下さい。

なお、郵送でのご連絡は：

〒158 東京都世田谷区玉堤1-28-1
武蔵工業大学人文社会科学系
芹澤功研究室気付
日本選挙学会事務局

電話でのご連絡は：

杏林大学社会科学部・河野武司
TEL:0426-91-0011 内線2577
FAX:0426-91-5899(杏林大学社会科学部)

まで、いただければ幸いに存じます。

1997年10月

発行：日本選挙学会事務局

河野 武司

〒158 東京都世田谷区玉堤1-28-1

武蔵工業大学人文社会科学系

芹澤功研究室気付

日本選挙学会事務局

TEL 03-3703-3111(大代表)

FAX 03-5907-2166(共同)